

研究主題 主体的に学ぶ力をもった子どもを育てる学習の創造

- 「市民性」を育む社会科学学習指導のあり方を探る -

嬉野市立轟小学校 校長 中野春男  
執筆代表 教諭 中村玲子

## 1 主題設定の理由

### (1) 社会の要請から

私たちを取り巻く現代の社会は、価値多元化社会といわれ、各個々人や各集団が、それぞれの価値観をもちつつも社会という一つの枠組みの中で生活をしている。それゆえ、時にはそれらに対立し、社会的な論争問題となる。その中で、我々は、何らかの判断を迫られ、自らの意思を決定していくことになる。昨今の国政選挙や地方選挙における投票率の低下や国民意識調査などが如実に表している通り、「付和雷同」的な人びとが増えてきている。また、社会全体の規範意識の低下は、実に多様かつ複雑な様相を呈し、しかもその状況は加速度的に変化している。そのような中、生涯にわたって学び続け、自己実現を目指す自立した人間、また、公共の精神を尊び、国家・社会の形成に主体的に参画・参加していく人間の育成が求められている。

### (2) 子どもたちの実態から

本校の子どもたちは、家庭においては地域の強い絆と三世同居という環境の中で、学校においては、比較的少人数の学級という温かい環境の中で生活している。そのため、明るく素直で、やさしい子どもたちである。さらに、地域の縦のつながりも強く、上級生が下級生の世話をする姿が自然に見られるなど、子どもたち同士の心の絆も太い。しかし、子どもたちは素直で指示されたことは確実に行うことができるが、与えられたもので満足し、自分から進んで課題を見つけたり、最後まであきらめないで解決しようとしたりする力が十分とはいえない。また、切磋琢磨して学ぶ経験が少なく、自己表現が苦手な子どもも多い。さらに、社会の出来事に対して関心はあるが、そのことに対して自分の考えをもっている子どもは少ない。

全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査、CRT学力検査等の結果では、子どもたちの関心・意欲・態度の観点が全国平均よりもやや落ちているという実態も明らかになった。

### (3) 本校の目指す教育から

本校の学校教育目標は「笑顔いっぱい、生き生きと学び合う轟っ子の育成」である。これまでも児童に生きる力を育むことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開してきた。特に一昨年からは社会科の研究に取り組み、轟地区や嬉野市などの地域素材を多数教材化し、子どもたちが住む地域に関心を高めさせながら授業実践に取り組んできた。豊かな体験学習やゲストティーチャーとの交流活動、学級全体での話し合い活動を有機的に仕組んだことで、確かな社会認識の育成や地域に対する見方・考え方の深まりが見られた。さらに、今後は子ども自身が自らを取り巻く社会的な状況や環境をよりよいものにしていくために、他者の影響によって自己の思考の変容に気付いたり、話し合いの中で自己の意思を豊かに表現したりすることについて研究していく必要がある。

## 2 研究主題、副主題について

「主体的に学ぶ力」とは、子どもが学ぶ意義をとらえ、自ら学ぶ意欲を高めながら、課題を見つけ、他者とともに問題を解決していく力のことである。本校においては、特に以下の2点の力であるととらえた。

他者の考えを受け止め、自らの考えをつくりあげる力

【思考力・判断力の育成】

他者と豊かなコミュニケーションを築いていく力

【表現力の育成】

子どもたちが教科・領域の学習において、習得した知識・技能は、個人の中にとどめておくだけでなく、それらを自分の周りの集団や家庭、地域といった外部に発信して、社会で自立して生きていく上での力として活用できるようにしていく必要がある。実際の授業の場では、個別に学習する場面ばかりではなく、友だちと共に学び合う場面を重視し、コミュニケーションを図りながら思考力・判断力、そして表現力を高めていく学習の構想が必要になってくる。

本研究においては、子どもたちが自らの願いや課題、目的をもち、それを実現、解決するために学習対象に主体的に関わり、課題を追究していくプロセスを通して、ものの見方や考え方を広げ、深めていくことを重視していく。そして、自己評価を通して学ぶことの楽しさや成就感、満足感を味わわせ、最終的には、学ぶことの意義を体得していくことを目指していきたい。

現在、社会科教育に求められていることは、社会的事象について考えたことを基に、自分で判断したり、自分の言葉で表現したりすることであり、よりよい社会の形成に参画するための資質や能力を育成することである。そこで本研究においては、「よりよい社会を形成していくための知識・能力・態度」を「市民性」ととらえることにした。「市民性」とは、学習指導要領で言う「生きる力」のことであり、本校が目指している「児童に生きる力を育むことをめざし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する」ことと大きく関わっている。つまり、社会科の研究を通して、児童の社会を見つめる力、調べる力、考える力、判断する力、表現する力、社会に関わる力を育てる授業づくりを模索していくことで「市民性」が育ち、主体的に学ぶ力をもった子どもを育てることができると考える。

### 3 研究の目標

児童が主体的に課題を解決しようとする意欲を高めるとともに、よりよい社会を形成していくために必要な資質や能力(市民性)を育てるための具体的な指導方法を探る。

### 4 研究の仮説

研究主題に迫るために以下の二つの仮説を立てて、授業実践を中心に研究を進める。

仮説 社会的な問題を学習課題として設定し、その解決について話し合ったり、意思決定したりする場を組み込んだ単元構成をすれば、市民性が芽生え、主体的に学ぶ力をもった子どもを育てることができるであろう。

仮説 地域社会との関わりを授業に組み込んだり、社会的な問題に目を向けるような環境を整えたりすれば、社会的事象に対する関心が高まり、主体的に学ぶ力をもった子どもを育てることができるであろう。

### 5 研究の内容と方法

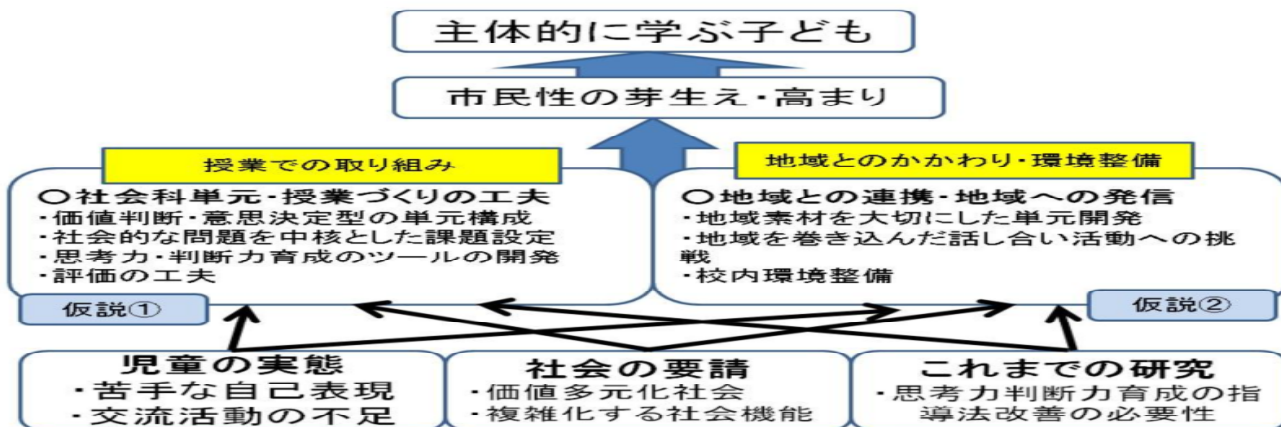
仮説 社会科授業における取り組み に関わる研究内容は以下の4点である。

- ア 価値判断・意思決定型の単元構成
- イ 社会的な問題を中核とした課題設定(学習問題の二重構造)
- ウ 思考力・判断力育成のツールの開発
- エ 評価の工夫

仮説 地域との関わり・環境整備 に関わる研究内容は以下の3点である。

- ア 地域素材を大切に単元開発(「地域発、子ども経由、地域行き」)
- イ 地域を巻き込んだ話し合い活動への挑戦
- ウ 社会への関心を高める校内環境の整備と充実

## 6 研究の構想



## 7 研究の実際

### (1) 基本的な学習過程について

学習問題の二重構造とは、基礎的・基本的知識を習得するための学習問題 と地域が抱える問題や子どもたちが切実性を感じる問題について、習得した知識を活用しながら解決を図っていく学習問題 である。この学習問題 を解決するために、子どもたち同士が、自分たちの提案を磨き合ったり、時には地域の人々も巻き込んで意見交換を行ったりしていく。さらに、実際に行動に移した後、自分たちの行動を振り返りながら、その効果や影響について語り合う場を設定していく。このように子どもたち自身の価値判断や意思決定を繰り返していく学習を積み重ねていくことにより、地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい社会づくりへの意識を高め、主体的に学ぶ力を育てることができると考える。

そこで、本校では、図1に示す基本的な学習過程を組み込んだ単元づくりを行ってきた。仮説を取り入れた授業過程を、兵庫教育大の岩田氏の学習過程を援用して、段階（社会的な見方を育成する段階） 段階（社会的な考え方を育成する段階） 段階（意思決定を行い学習を振り返って自己の変容を実感する段階）に段階分けした上で、仮説に関わる授業実践を通して具体的に検証していくものとする。

過程	主な学習活動	実践化への手立てと仮説に関わる評価
段階 社会的 な見 方 調 べ る 段 階	既存知識を使った体験、経験 社会的な事象との出会い 疑問・とまどい・驚き・矛盾による問題意識 学習問題に対する情報の収集 情報の分類・比較 学習問題に対する予想と検証 社会的問題の発見 社会的問題の現状、原因の調査 問題に関わる人の存在を知る。 (様々な立場の存在に気付く) 解決策の発案(自己の考え) 解決策の整理 解決策の吟味・検討	問題との出会い：学習問題 問題意識を誘発するような事象提示や体験活動の設定、問題意識の掘り起こし 問題意識の共有化 様々なメディアの活用を促し、情報の信憑性や妥当性について促す。 問題意識の深化：学習問題 解決に意見が分かれる問題、価値がぶつかる問題の存在を示唆する。 問題意識の追求 個人でできること、集団で行うべきことの弁別の示唆

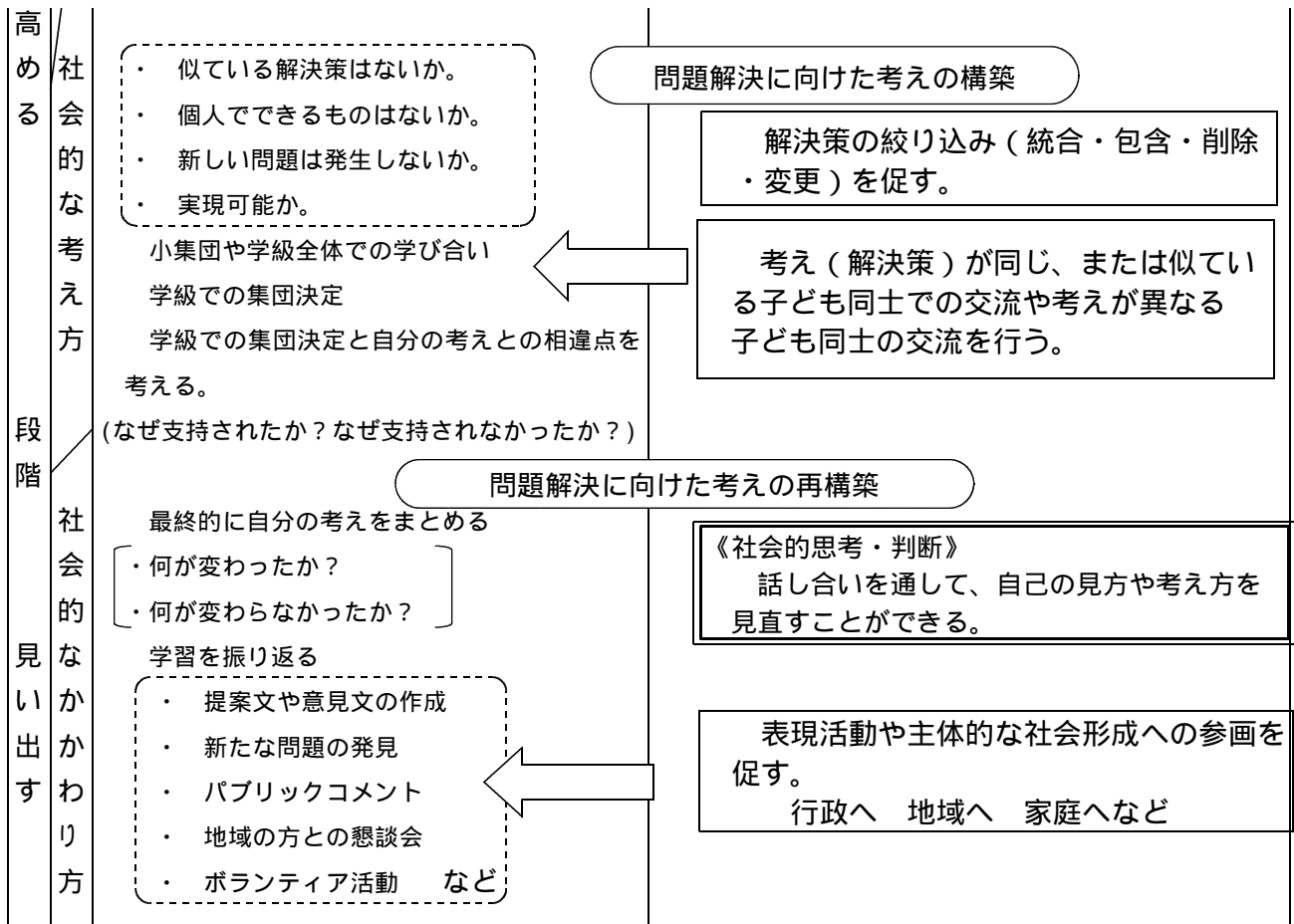


図1 基本的な学習過程

(2) 社会的な問題について話し合い、意思決定を行う場について

市民性を身に付けた子どもとは、自分の身の周りや地域社会、日本国内、更には、国際社会における社会的事象に対して、他者と積極的に関わり、様々な見方で事象をとらえ、社会を築いていくための自分の考えを創り上げていく子どもであると考え。社会的な問題とは、人々の価値観や立場の違いから解決策が分かれる問題である。言うなれば正解が存在しない問題に対して我々はその解決策を模索していくことを迫られる。そのために必要な資質が市民性である。市民性を身に付けた子どもを育てるためには、個人の頭の中だけで考えを構築するのではなく、他者に働きかける中で相互に作用させながら、互いの考えを吟味したり、検討したりする話し合いの場が必要である。その際、いろいろな考えの中からベストな解決策(考え)を選んだり、優先順位をつけたりする場面、すなわち様々な価値を勘案しながら解決策の優劣を判断し、最終的に学級全体で意思を決定する場面を取り入れることで、話し合う必然性が生まれ、主体的に学ぶ力が高まると考える。

(3) 地域と関わりながら自分の考えを見直す場について

学習問題に対してそれぞれの考えを出し合い、交流し合うときに、学級内の友だちに限らず、教師、ときには、ゲストティーチャーや地域の方なども巻き込んで、自分の考えを吟味したり、検討したりする場を模索していきたいと考える。社会的な問題の解決について話し合うので、場合によっては教室を超えて子どもたちは自分たちの考えを確かめたり、発信したりすることも考えられる。例えば、授業参観の場において、自分たちの解決策を保護者の方へ提案し、コメントをもらったり、ゲストティーチャーから評価してもらったりする活動も考えられる。その後、自分たちの考えを振り返る活動を仕組むことにより、「なぜ自分たちの考えは支持されなかったのか」逆に「支持されたのか」について考えることで子どもたちの思考や判断は、更に社会性を帯びるものと考え。

- (1) 単元 3年生「どこで買うの? そのわけは ~ 嬉野温泉通り商店街にこんなお店があったら ~」  
 (2) 単元とその指導について

本校校区内には、いくつかのスーパーマーケットやコンビニエンスストアが点在し、日常生活に必要なものは、子どもたちでも気軽に買い物ができる状況にある。また、嬉野市の中心部には、昔から続く「温泉通り商店街」もあり、地元の人々や観光客が買い物に来ている。商店街は「地元・観光の双方のお客様から愛される街づくり」を目指して、地域の人々や店主が中心となり、積極的な販売活動を推進されている。そして、各店舗の特色をもたせるために、新商品の開発にも取り組んだり、多くのお客さんを集めるために「風鈴夜市」や「あったかまつり」などの各種イベントを企画されたりしている。しかし、最近では、「後継者不足」による閉店の増加や以前に比べて集客力が低下してるといった問題がある。

本単元は、地域の販売の仕事に関心をもち、スーパーマーケットや商店街での見学やインタビュー活動を通して、これからの商店街の活性化について考えようとするとともに地域に対する愛情を育てることをねらいとしている。単元を通して、販売に関わる身近な人々の工夫や努力に共感しながら、「嬉野市らしさ」という街づくりの視点で、自分たちが住む地域の仕事や働く人々について、多面的に見たり考えたりする能力を育成しようとするものである。

この単元で育てたい3年生の「市民性」を、「自分たちの住んでいる地域の販売の仕事に関心をもち、地域のよさや特色を見出し、地域の一員としてよりよい町づくりについて自分の考えをもつこと」ととらえたい。さらに、販売に関わる仕事の様子や販売の工夫、働く人々の願いなどを下に、商店街の活性化について自分たちの考えを地域に提案し、その反応を得ることは、子どもたちの市民性を育む上で意義あることであると考える。

- (3) 単元の目標(本研究に関わって)

地域の販売の仕事の様子や販売の工夫を基に、自分たちの生活と関連付けながら商店街のこれらについての自分の考えをもつことができる。 (思考・判断)

- (4) 単元計画(全15時間)

過程	主な学習活動	教師の働きかけ	時配
つかか	近くのスーパーやコンビニ、商店などに買い物に行った経験や自分の家の買い物調べで気付いたことを発表し合い、疑問に思ったことを基に学習問題を作る。	校区内のスーパーやコンビニ、商店などの写真を提示して、買い物をした経験やお店の様子、それぞれのお店の違いなどについて感想を交流させることで、販売に関する仕事について興味を喚起する。	1
	学習問題 スーパーマーケットや商店街で、品物を売る工夫や努力について調べよう。		
む	スーパーや商店街でたくさんの人が買い物をしているひみつについて予想し、調べる計画を立てる。	保護者のアンケートを基にランキング形式でよく買い物をする場所を提示し、どのような違いがあるか予想させる。	1
調	近くのスーパーに見学に行き、店内の様子や仕事をしている人の様子、品物の並べ方、集客の工夫などについて調べ、見付けた秘密を絵カードに記録する。 【見学】	事前に「店内の様子」「品物の並べ方」「店員さんの様子」「駐車場」などの調べる観点を確認し、グルーピングを行っておく。	2
	記録した絵カードを仲間分けしてスーパーの販売の工夫についてまとめる。	学級全体で出した絵カードを「買いやすさ」「来やすさ」「お得さ」などの仲間分けを行い、スーパーの販売の工夫と自分の経験や保護者のアンケートとの関連に気付かせる。	1
	温泉通り商店街の見学に行き、商店街の様	商店街のお店の種類を調べたり、お店の方やお客さ	2

べ る	子や仕事をしている人の様子や品物の並べ方、お客さんを集める工夫などについて調べる。 【見学】 商店街マップを作り、商店街のよさや困ったことについて話し合う。 絵カードにまとめたことを基に、スーパーとの違いや商店街が集客のために取り組んでいること話し合う。	んにインタビューしたりして、お店の特色や販売の工夫などについて調べさせる。  絵カードを基にマップを作成させることを通してスーパーとの違いに気付かせる。 スーパーと商店街の違いについて話し合わせ、商店街全体としての取り組みや店と店のつながりについて目を向けさせる。	1 1
	高 め る	家族にインタビューして買い物客の願いについて調べる。 温泉通り商店街の方の話を聞き、現在の課題について考え、学習問題を設定する。 学習問題 温泉通り商店街に「こんなお店があったらプラン」を考えよう 商店街の空き店舗に、お客さんがたくさん集まるような新しいお店のプランを考える。 既習内容(様々なデータ)を基に、自分たちが支持するプランを作る。 「商店街こんなお店があったら会議」を開き、ベストプランを話し合う。 提案するベストプランを決定する。	消費者として、これからのお店に望むことについて、自分の家族にインタビューさせる。 商店街の空き店舗が増えているという事実を踏まえ、こんなお店があったらよいかについて考えさせる。  お店プランを自由に考えさせた後、同じ考えの子どもたちでグループを作らせ、プランを完成させる。 立場カードを用いて、自分たちが生産者・販売者・地域住民のどの立場かを意識させる。 商店街組合の方や自治会の方をお呼びし、議論に参加していただく。その際、子どもたちのプランの問題点や改善の示唆をもらう。
見 出 す	「商店街こんなお店があったら会議」をした後の感想を交流をして、学習を振り返る。	学級全体で話し合っただけのことや地域の方から指摘などを発表させ、個人思考の振り返りをさせる。	1

(5)本時(13/15)での展開 ( ...児童の発言・反応)

学習のめあてを確認する。

T: 今日自分たちが考えたお店プランと他のプランをくらべて発表して、お店のベストプランを決めるんだよね。そうです！

こんなお店があったらプランのベストプランを話し合っただけよう

それぞれのお店プランのよさについて発表する。

【うれしの紅茶ショッププラン】      【ゆうきさいばい茶ショッププラン】      【もったいないショッププラン】

- ・うれしの紅茶だけを売ってる店はない。
- ・最近ざっしやテレビで紹介されている。
- ・他の県では売ってないから売れる。
- ・子どもからお年寄りまで安心して飲める。
- ・最近は無農薬に関心がある人が多い。
- ・今の商店街には売ってない。
- ・なるべく安い物を買いたい人が多い。
- ・形は悪くても味は変わらないから。
- ・新鮮な野菜を売ることができるから。

「温泉通りらしさ」「もうかるか」の観点を基に、他のプランと比較して、自分たちのプランのよさを発表する。

T: 全部のプランについて「温泉通りらしさ」「もうかるか」で      をつけてみよう。

【「温泉通りらしさ」の観点について】

有機栽培茶は他に売ってる所はあるけど、うれしの紅茶は嬉野だからこそあるお茶だと思う。( )      うれしの紅茶だけを売っても意味がない。( )もったいないショップの方が嬉野の品物の種類が多い。( )      白川さんが時間と手間を掛けて作っている有機栽培茶だから、嬉野らしいと思う。( )      もったいないショップは嬉野ら

しさてあるかな( ) あるよ。嬉野で採れた野菜やもん。( )

【「もうかるか」の観点について】

有機栽培茶もうれしの紅茶も売物は一つだけど、もったいないショップはたくさんの商品を売るからもうかる。( ) うれしの紅茶は、「嬉野ならでは」なので、売れるはず。( ) もったいないショップは安くして売ると言ったので、安いだけではもうからないと思う。( ) 有機栽培茶は安心、安全だから健康ブームでたくさん売れてもうかると思う。( ) もったいなショップは、傷があったり曲がったりしてるので安く仕入れて、味はおいしいのでもうかると思う。( )

どのお店もなかなかいいけど、そんなに簡単に売れるかな？お店の人今まで結構工夫したけどな。

GTの商店街の木原さんのお話  
 そうだなあ。もったいないショップで虫食いの野菜を安く売ると言ってたけど、売れないんじゃないかな。うれしの紅茶だけでは、やっぱり無理だね。品揃えはやっぱり大事だよ。ベストプランを決定する。意思決定の場面(Aうれしの紅茶 B ゆうきさいばい茶 C もったいない)

Cを選んだ理由は、安く売ったらお客さんが集まってくる。たくさんもうかると、空き店舗がなくなると思う。味は変わらないんだからきっと売れる。

Aを選んだ理由は、おいしいしリラックスできる。うれしの紅茶専門店はこの商店街にないから。

Bを選んだ理由は、嬉野はやっぱりお茶が有名で、商店街にお茶屋さん3軒しかないから増やしたい。有機栽培茶は、健康にもよいし、手間暇も普通のお茶に比べて掛かっているよ。

<結果> Aうれしの紅茶...11人

B ゆうきさいばい茶...9人

C もったいないショップ...12人

各3つのお店プランについて、「温泉通りらしさ」と「もうかるか」の2つのことについて ○○△の記号を書いてみよう。

	A うれしの紅茶ショップ	B ゆうきさいばい茶ショップ	C もったいないショップ
温泉通りらしさ	○	○	△
もうかるか	○	○	○

○○○△をつけたことをせめて、商店街にお客さんが集まるお店プランのベストプランを決めよう。

わたしが選んだベストプランは A

ベストプランを選んだ理由は

うれしの紅茶はうれしのためからその売れるお茶だと思いきやうれしの紅茶はおいしいから観光客さんにもその人でもらいたいのではそのままだよ。茶ショップにしては今日のお客を振りかえって出たことを書きましょう。(○をつけましょう)

もったいないショップになてくたけどもったいないショップの人たちもかんはっててそのきもちがたわたりかと思いました

本時の意思決定ツール

今日の学習を振り返る。

もったいないショップがいいと思ったけど他のお店もよかったのですごく悩んだ。

本当にこんなお店ができて商店街にたくさん人が来てくれるようになればいいな。

選ばれなかったけれど、どのお店が商店街にあったらいいかをいろいろ考えて楽しかった。

うれしの紅茶が選ばれなくてくやしかったけど、みんなの考えを聞いてよかったと思う。

(6) 本時における考察

本時のねらいは、提案されたお店プランの中から「温泉通りらしさ」と「もうかるか」という観点を考慮して、自分なりのプランを選び理由を表出することであった。子どもたちは、前時までに自分たちが支持するお店プランについて自分たちの考えを練っていた。つまりこだわりをもって本時に臨んでいたわけである。しかし、「温泉通りらしさ」と「もうかるか」の観点を提示によって、他のお店プランと比較しながら、観点に沿って自分たちのプランのよさを主張しなければならないところに本時の思考・判断の場面を設定した。さらに、GTの「そんなに簡単に売れるかな」という発言にあるように、消費者の立場を意識した発言も要求されるようになった。

前時までは、子どもたちのお店プランづくりの観点は「おいしさ」や「めずらしさ」、「もったいない」、「にぎやかさ」などであったが、本時では、新たに「温泉通りらしさ(嬉野らしさ)」「もうかるか(つぶれないか)」の2つの観点を考慮したことで、それまでの考えが揺さぶられ、新たな観点で自分たちのプランを見直すことができるようになった。また、ワークシートに観点ごとに

を記入させ、それを基に他のお店プランと比較させたことにより、客観的に自分のお店プランをとらえ直すことができたようである。さらに、学習問題 で学んだことを活用しながら、現在の嬉野市の商店街の問題に立ち返りながら、自分たちが支持するお店プランのよさを発表したり、他のプランのよさを認めたりする発言も多かった。

最終的な学級全体での意思決定は「もったいないショップ」に決定した。最後の振り返りには、自分のプランのよさを再発見したことや十分ではなかった点に気付いたこと、なぜ支持されなかったのかその理由を考えて記述している児童も多かった。このことにより、広い視野から自分の考えを見直したり、友だちとの関わりのおかげで自分の考えの変容を実感していることがうかがえる。

寂しくなっていく商店街を取り上げたことにより、子どもたちは、今まで大型ショッピングセンターにばかり傾いていた自分を振り返り、地域のよさを知りたい思いや問題を解決したいという意欲をもつことができるようになったことは、3年生なりの市民性の芽生えであると考えられる。

## 9 実践その2 (仮説 に関わって)

### (1) 地域との連携・地域への発信をめざした単元開発

「市民性」を育てるためには、身近な地域社会との関わりが不可欠である。子どもたちは、住んでいる地域の方との交流や、地域の中での体験活動によって、様々な社会的事象に出会い、問題に気付き、そのよりよい解決方法について考えを深めていく。さらに、みんなで話し合い、学んだ事を地域へ発信することで、自信や達成感をもつことができる。そういう学習を積み重ねることで、地域を愛し、大切に思い、地域のためにできることを考え、行動できる子どもを育てる事ができるはずである。本校では「地域発 子ども経由 地域行き」のキーワードを基に、3年間で表1のような地域とのよりよい関わりをめざした単元開発を行ってきた。

学年	単元名	地域発	子ども経由	地域行き
3年	お茶農家の人の仕事はどうなっているの	日本茶インストラクターの方の話 嬉野茶試飲体験 お茶農家見学	「嬉野茶キャンペーンに参加しよう」～ぼくたち・わたしたち嬉野茶宣伝隊～ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習問題</span>	「あったか祭り」の「嬉野茶キャンペーン」に参加
	市のようすはどうなっているの	嬉野市内見学ツアー(市内の名所見学) 志田焼きの里の方の話	「おすすめガイドツアーコースをつくろう」 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習問題</span>	おすすめガイドツアーコースの提案
	どこで買うの？そのわけは	スーパーマーケット見学 温泉通り商店街見学 商店街組合の方の話	「温泉通り商店街にこんなお店があったらプランを考えよう」 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習問題</span>	「こんなお店があったらプラン会議」で商店街組合に提案
4年	そのごみどうするの	嬉野市ごみ中継基地見学 杵藤クリーンセンター見学 嬉野市役所環境課の方の話	嬉野市のために「我が家のごみ減らし大作戦」を考えよう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習問題</span>	家族と「我が家のごみ減らし大作戦」の実践
	自慢できる先人を探そう	嬉野茶試飲体験 歴史民俗資料館の方の話 新兵衛墓石・頌徳碑見学	ぼくたち、わたしたち「嬉野茶」宣伝隊 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習問題</span>	お茶屋さんで嬉野の先人・嬉野茶の宣伝
5年	私たちの暮らしを支える食料生産	JAの方の話 市役所農林課の方の話	農業をする人を増やすためのプランを考えよう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習問題</span>	農業をする人を増やすためのプランを農水大臣に伝えよう
	私たちの暮らしと情報	NHKテレビ局見学 嬉野ケーブルテレビ局の方の話	嬉野ケーブルテレビ局では、どんなニュースを取り上げたらよいだろうか <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習問題</span>	「ベストニュース企画会議」で嬉野ケーブルテレビ局の方にプランの提案

	わたしたちの環境はどのように守られているの	九州電力「環境・エネルギー」出前講座 環境下水道課の方の話	嬉野の環境を守るためのプランを考えよう <b>学習問題</b>	「環境ちょボラ対策会議」で市役所環境課の方に提案
6 年	国の政治の仕組みはどう整えられたの	歴史資料館の方の話	聖徳太子の政策 1 を考えよう <b>学習問題</b>	聖徳太子へのメッセージを発表
	平安貴族の世の中と鎌倉武士の世の中	地域の方に流鏝馬の話聞く	どちらの世の中がいい世の中だったのか? <b>学習問題</b>	藤原道長や源頼朝に手紙を書き、学級で発表し交流
	戦争は人々の暮らしをどう変えたの	地域在住の方の戦争体験話 語り部さんの話(修学旅行)	轟小学校平和宣言を作ろう <b>学習問題</b>	轟小祭りでの平和宣言

表1 地域との連携・地域への発信をめざした単元開発例 (轟小平成19年~22年)

## (2) 社会への関心を高める校内環境の整備

低学年の子どもたちも含め全校児童が、日常的に社会への興味・関心を向けることができるように校舎内に以下のようなコーナーを設置した。1つ目は、「社会科の広場」(写真1)である。全校児童を対象としているので、身近な地域の話や出来事から国際的な事件・事故の様子などに渡って写真や新聞記事を中心に掲示を行った。また、社会科の授業で作成したワークや新聞、社会科の授業内容に関わる資料などの掲示を行った。2つ目は、「社会科クイズコーナー」(写真2)である。ニュース用語や写真について、クイズ形式で楽しく取り組めるように工夫した。3つ目は、「階段コーナー」(写真3)である。中央階段には、基礎的な知識や用語を定着できるように、地図記号や都道府県の県庁所在地などを掲示して、常時、子どもたちの目に触れるように工夫した。



写真1 社会科の広場



写真2 社会科クイズコーナー



写真3 階段コーナー

## 10 研究の成果

よりよい社会を形成していくための市民性を高め、主体的に学ぶ力をもった子どもを育成することをめざし2つの研究仮説を柱に研究を進めた結果、以下のような成果が得られた。

### (1) 仮説 **社会科授業における取り組み** についての成果

価値判断・意思決定型の社会科授業に取り組んだことで、社会的な問題に対して、主体的に解決方法を考え、インタビューや見学をしたこと、資料から調べたことを基に自分の考えをつくり、その考えを友だちに主張しようとする姿が見られた。また、学習問題を二重構造にしたことで、問題で学び得たことを基に、正解が存在しない問題の解決に向かって、互いの主張をぶつけ合ったり、折り合いを付けたりすることができるようになった。

轟地区や嬉野市などの地域素材を教材化したことや、観点を意識させた意思決定場面で交流させたことにより、子どもたちは意欲的に課題解決へ向かっていた。友達と意見を交わしたり、ゲストティーチャーにも話し合いに加わってもらったりする中で、自分の考えを客観的に見つめたり、地域の一員としての役割を感じたりしながら、自分の考えを振り返ることができた。

社会的な問題に対する話し合いの場で、意思決定のためのツールを使った発表を行わせたことで、他の考えと比べたり、自分の考えの根拠が明確になったりして、思考力・判断力の高まりが見られた。

現在自分の身の回りに起こっている出来事への興味・関心について調査したところ、県全体に比べて本校の5年生は、興味・関心が高いことが分かった(図5)。特に高学年で、新聞記事を自分の考えを支えるデータにしたり、テレビのニュースについて自分の考えを話したりする子どもたちが増えている。

(21)新聞やテレビのニュースなどに出てくる国内外のできごとや事件などに興味・関心がありますか。

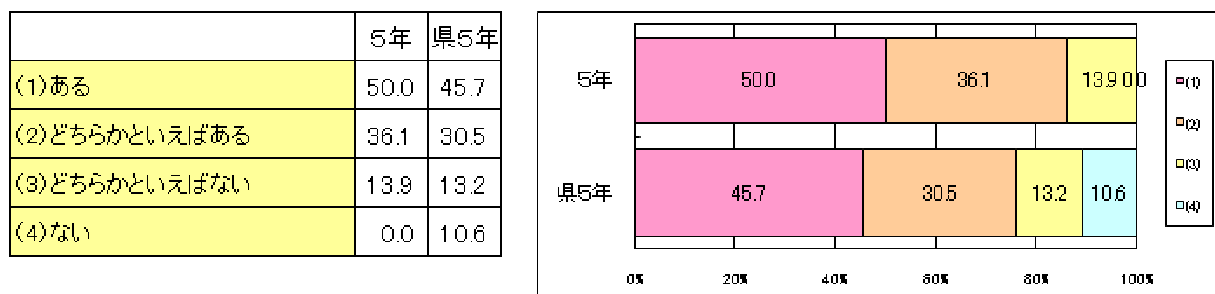


図2 佐賀県学習状況調査 5年生の意識調査

(2) 仮説 **地域社会との関わり・社会的な関心を高める環境の整備** についての成果

ゲストティーチャーの話を聞いたり地域に見学に行ったりすることにより、自分たちが住んでいる地域への愛情が深まり、社会をよりよくするための方策を主体的に考えようとする意欲につながった。

自分の考えをゲストティーチャーに聞いてもらい、また、意見をもらうことで更に社会性を帯びた考えへと深めることができた。地域の問題を子どもが考え、それを子どもたちなりに提案していく学習が継続してできてきて、地域の一員としての自覚を感じるようになってきている。

社会科に関する計画的な掲示物の作成や、学級担任のアイデアによる掲示物の作成によって、学校全体が地域社会の話題や社会科の学習内容に触れる環境に変わってきた。

11 今後の課題

市民性を育成する社会科指導法の工夫に取り組んできたが、その評価方法については研究が十分に至らなかったことを反省している。今後は、年間を通して抽出児の思考の変容を追ったり、パフォーマンスを課してその内容をループリックによって評価したりするなど、より精緻化された評価方法を模索していきたい。

評価と関わって子どもたちの表現力育成にも力を入れていく必要がある。意思決定ツールにしるパフォーマンス評価にしる子どもたちの文字表現に頼るところが大きい。話し合い活動においても発表が苦手な子どもも少なくない。今後の課題としたい。

《参考文献》

- ・ 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 社会編』 平成20年8月 東洋館出版社
- ・ 佐賀県小学校社会科研究会 『研究紀要』 2008年
- ・ 小原 友行編著 『思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン 小学校編』 2009年 明治図書
- ・ 岩田 一彦著 『社会科固有の授業理論 30の提言』 2003年 明治図書
- ・ 佐賀市立本庄小学校 『学習法の小冊子 本庄メソッド』 2008年
- ・ 坂井 清隆 「シチズンシップ教育における社会科学習指導の可能性を探る」 『社会認識教育学研究第25号』 2010年